

菊池五山：大琳寺

大琳寺は、菊池氏全盛期の城下町・隈府で最も重要な宗教施設のひとつであった。菊池武光（1319-1373）により、衰退していた一族の地位を回復するための努力の一環として、古い寺院の跡地であった隈府の中心部に創建された。

武光は大琳寺を創建し、城下町周囲の四方位に四つの寺を選んで菊池五山とした。菊池氏はこれらの寺院を保護し、寺院は一族のために様々な管理、監督、宗教的任務を果たすことが期待された。

武光の五山指定は、南宋時代（1127-1279）の中国で始まり、鎌倉幕府（1185-1333）によって日本にもたらされた伝統に基づいている。鎌倉五山制度の目的は、鎌倉幕府が最も好んだ仏教の宗派である禅を広めることと、その寺院を官僚機構に組み入れ、天下と民に対する幕府の統制を強化することであった。武光が菊池に五山制度を導入したのも、宗教的徳と行政的利益という二つの目的があったからだと想像できる。

菊池一族は武光のもとで繁栄し、九州で最も強力な武士集団となり、1400年代後半まで政治的にも文化的にも重要な力を持ち続けた。大琳寺は1755年の台風で破壊された後、元の場所から少し北に離れた現在地に移された。